

財団法人伊藤記念財団保存版

昭和60年度(財)伊藤記念財団委託事業

加工用豚肉加工適正試験実績報告書

昭和61年3月31日

全国農業協同組合連合会

# 加工用豚肉加工適正試験実績報告

## 1. 主 旨 :

国内産豚肉の需要が伸び悩むなかにあって、単味品を中心とした加工品の需要は、安定した伸びをみせている。

しかし、単味加工品の原料は主として輸入品で賄われており、国内の豚肉の需給が緩和基調にあるなかにあって、豚肉需給と価格の安定・維持を図るために、国内産豚肉の加工原料としての活用強化が今後の重要な課題である。このため、国内産豚肉の加工品原料供給の検討に資するものとして本試験を実施した。

なお、この試験は財団法人伊藤記念財団の昭和 60 年度委託事業として実施したものである。

## 2. 目 的 :

国産豚肉による加工品原料供給については、品種・肥育技術・収益性・枝肉重量・規格・加工製造方法・価格等の総合的な検討が必要である。

特に枝肉重量（主としてロースの太さ）について国産豚肉が単味加工品（主としてロースハム）の原料規格に合わず、輸入品に比べ大き過ぎ、加工原料に向かないとされていた。

しかし、ロースハムの需要形態が一本ものからスライスものに移行するなど、ニーズの変容で必ずしも枝肉重量の大きさが加工適正を決定する要因とは言いがたい状況になっている。

また、品種について LWD および LWH など三元交雑種の普及率が向上しており、これら品種間の特性調査も加工適正を検討するうえで重要である。

こうしたことから、本試験では次の事項を対象として、国産豚肉による

「加工適正試験」を実施した。

- (1) 枝肉重量による加工適正試験
- (2) 品種による加工適正試験

### 3. 試験方法 :

- (1) 供試豚および試験区

供試豚は、全農飼料畜産中央研究所で肥育された肉豚を次の試験区に区分し、試験に供した。

表 1 試験区および頭数

品種 区分	生体重 80kg区	生体重 90kg区	生体重 100kg区	計
LWD	16 頭	16 頭	16 頭	48 頭
LWH	—	—	16	16
LW	—	—	4	4
計	16	16	36	68

- (2) 区別試験内容

#### ア. 体重区別試験区

枝肉重量区別試験には、表 1 の LWD の各体重区の出荷肉豚を供した。

#### イ. 品種別試験区

品種別試験には、表 1 の生体 100kg 区により、LWD, LWH, LW の出荷肉豚を供した。

なお、LWについては、供試頭数が少ないので、原料肉段階では比較検討から除外した。

(3) 試験方法

各試験区の原料肉および加工品について、歩留成績、肉質検査、加工品の官能試験等を行った。

なお、加工品製造のピックル配合ならびに熱処理条件は表2、3の内容とした。また、主要原料であるロースの供試は、図1に示す部位を使用した。

表2 ピックル配合  
(%)

		a. ハム用	b. ベーコン用
食 塩		1 3.8 0	1 9.8 0
砂 糖		3.8 3	5.5 0
アスコルビン酸ナトリウム		0.6 1	0.8 8
亜硝酸ナトリウム		0.1 5	0.0 9
トリポリリン酸ナトリウム		1.7 3	0.8 3
ヘキサリン酸ナトリウム		0.3 5	0.1 7
ピロリン酸ナトリウム		0.2 3	0.1 1
水		7 9.3 0	7 2.6 2
合 計		1 0 0.0 0	1 0 0.0 0

表3 热処理条件

		スモークハウス温度	時 間
乾 燥		70℃	約60分
燻 煙		70℃	約60分
蒸 煮		80℃	製品の中心達温70℃まで

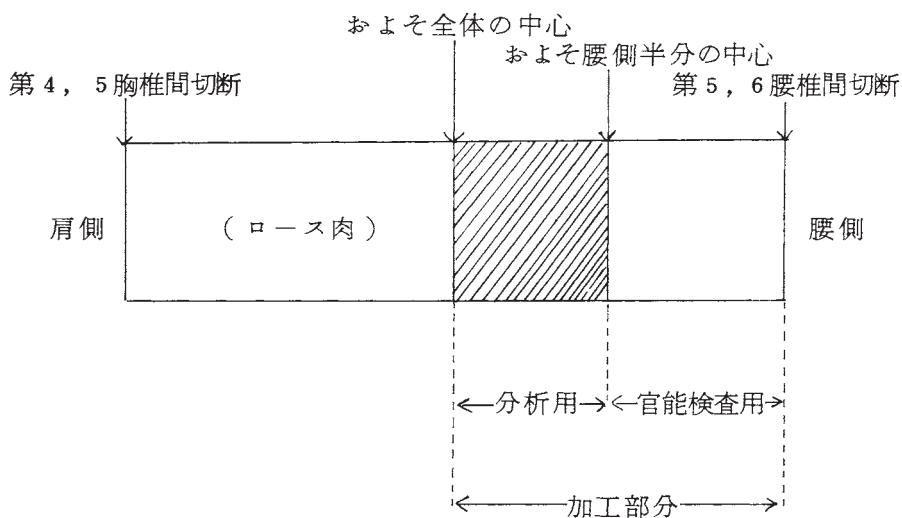


図 1 右半丸枝肉のロース部分の供試方法

#### (4) 試験場所

試験は、と畜解体と原料肉質検査を全農飼料畜産中央研究所で、部分肉加工と原料歩留調査を全農中央畜産センターで、加工品製造と製品分析を全農農業技術センターでそれぞれ実施し、全農畜産販売部において集約した。

また、製品分析と官能検査の一部について(社)日本食肉加工協会に委託した。

#### (5) 実施期間

昭和 60 年 8 月 1 日～昭和 61 年 3 月 31 日

### 4. 試験結果 :

#### (1) 原料肉の成績

原料肉段階の体重別、品種別、用途別の内臓重量、枝肉成績の集約数値を表 4 に、体重、品種別のと体形質および肉質成績図表を図 2, 3 に、体脂肪の性状は表 5 に示した。

#### ア. 体重別の成績

- ① 内臓重量は LWD 100Kg に対し、 80Kg が 79 %, 90Kg が 89 % と体重差とほぼ同じ割合であった。
- ② 枝肉の歩留まりは各体重で差がみられなかった。
- ③ と体長および背腰長Ⅱは 100Kg に対し、 80Kg が 94 %, 90Kg が 96 % であった。
- ④ 脂肪厚は体重が大きくなるにつれて厚くなる傾向を示し、 100Kg に対し、 80Kg が 80 %, 90Kg が 90 % の厚さを示した。
- ⑤ カタ、 ロース、 バラ、 モモの四分割割合は各体重で大きな差がなく、量の違いをしめした。
- ⑥ ロースの長さは 100Kg に対して、 80Kg が 93 %, 90Kg が 95 % であった。
- ⑦ ロース断面積は 90Kg と 100Kg で差がなく、 80Kg が 100Kg の約 90 % であった。
- ⑧ 最後胸椎部におけるロースの割合は体重が大きくなるにつれて、小さくなつた。
- ⑨ バラの脂肪割合は 90, 100Kg で差がないが 80Kg では 100Kg に比べて約 2.5 % 少なかつた。
- ⑩ 肉色、保水性は体重による差がみられなかつた。
- ⑪ 肉色に影響するヘム色素は体重がおおきくなるにつれてわずかに増加傾向を示すものの、肉色に影響を与えたなかつた。
- ⑫ 一般成分は体重による差がみられなかつた。

#### 1. 品種別の成績 ( LWD 100Kg と LWH 100Kg )

- ① 内臓重量には差が見られないが、 LWD は赤物が小さく、白物が大きかった。

- ② と体形質は両品種間に差がみられなかった。
- ③ ロース切断面積は LWH が大きい傾向を示した。
- ④ 肉色は LWH に比べ LWD がやや濃い傾向を示した。
- ⑤ ヘム色素は LWH が LWD より少なかった。
- ⑥ 保水性は LWD が優れた。
- ⑦ LWH は LWD に比べ、水分が高く、粗脂肪、粗蛋白質が少なかった。

#### ウ. 体脂肪の性状

- ① 各体重、品種による脂肪酸組成は差がみられなかった。
- ② 屈折率は LWD 100Kg がやわらかかった。
- (2) 格付成績および加工整形後の出来高  
格付成績、バラの大きさ、加工出来高は表 6, 7, 8 に示した。
- (3) 加工品の成績  
加工品段階における製造工程歩留りおよび製品分析結果を表 9, 10, 11, 12, 13 に示した。
  - ① 品種別試験区では LW 種、LWH 種及び LWD 種についてロース、もも及びバラのすべてで製品の整形肉に対する歩留りは、LWD 種が最も高かったがロースで最も低い LW 種より 2.0 % 程度、ももで最も低い LWH 種より 2.8 % 程度、バラで最も低い LWH 種より 2.1 % 程度高いものであった。
  - ② 品種別試験区のみではロース芯の断面積は LWH 種が最も大きかった。
  - ③ 品種別試験区の色調では、特にロースについて a 値は LWD 種が最も高く、製品の赤味が強く発色程度が良い好ましい製品と判断された。
  - ④ 品種別試験区の pH についてはロース、もも共に LWH 種が LWD 種と LW 種に比して低く、保水性でも LWH 種が低かった。

- ⑤ 体重別試験区については製品の整形肉に対する歩留り及び製品の検査分析において際立った差異はなく、製品の大きさが異なるだけであった。
- ⑥ 外部委託製品検査分析については検査体数が少ないので参考程度であるが、概ね、今回供試した製品の一般生菌数は  $10^3 \sim 10^4 / g$ 、大腸菌群は陰性、亜硝酸根は 40 ppm 以下、食塩は 1.7 ~ 2.2 % 程度であった。また官能検査では今回供試した体重別試験区のものについては差がなかった。

## 5. 要 約

今回の試験は、体重別、品種別に原料肉から製品に至るまでの加工仕向適性度合について調査分析したものであるが、総合的にみて、体重別試験区では原料肉、製品とも実用化にあたっての注目すべき差は出なかった。しかし、品種別試験区では、製品歩留、保水性等で品種間の格差が生じており、特に加工製造段階で LWD 種がやや優位な結果となった。

国産豚肉を加工原料として有効活用するためには、本試験で示唆された品種別格差の追究に加え、輸入原料との比較、形態別、用途別の加工適性等についても今後さらに検証していく必要があると思料される。

試験成績資料

表4 加工豚の原料肉成績 (1)

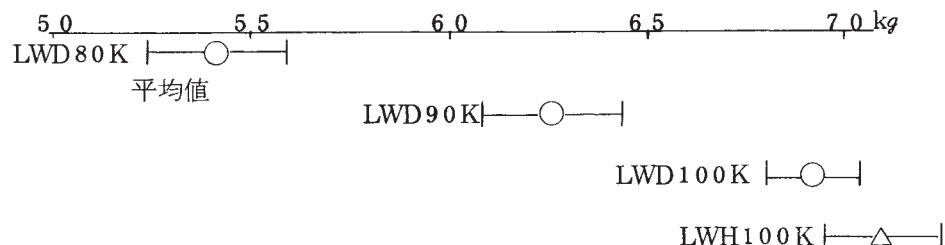
	L W D		L W H		L W	
	80 kg (16頭)	90 kg (16頭)	100 kg (16頭)	100 kg (16頭)	100 kg (4頭)	100 kg (4頭)
体重時	8.0	8.8	9.2	10.1	9.6	9.6
体積時	7.8	7.6	8.9	10.0	10.3	10.3
重量時	5.4	5.0	6.2	6.9	6.8	6.8
歩留率	6.8	7.7	6.9	6.9	7.0	7.0
肉の重さ	3.5	3.1	3.8	4.2	3.8	3.8
皮の重さ	8.5	7.0	9.1	9.6	9.9	9.9
骨の重さ	2.5	2.2	2.7	2.8	2.1	2.6
内臓の重さ	1.0	9.0	1.1	6.0	1.3	1.0
皮の面積	2.1	0	2.3	8	2.8	7
筋肉の面積	2.4	5	2.6	4	2.9	3
骨の面積	3.4	8	3.9	0	4.7	6
内臓の面積	2.6	8.0	2.8	8.0	3.2	1.0
皮の厚さ	4.6	2.0	5.2	0.0	5.8	6.0
肉の厚さ	9.2	0	9.3	7	9.7	6
皮の長さ	7.6	6	7.8	3	8.1	5
肉の長さ	6.7	6	6.8	8	7.1	8
皮の幅	3.0	6	3.2	3	3.4	1
肉の幅	2.5	3	2.8	6	3.2	3
皮の割合	1.4	3	1.7	9	1.8	4
肉の割合	2.3	6	2.5	6	2.7	6
皮の平均	2.1	0	2.4	0	2.6	1
肉の平均	3.3	0	3.2	5	3.2	4
皮の割合	2.3	2	3.3	2	4.3	2

表 4 加工豚の原料肉成績 (2)

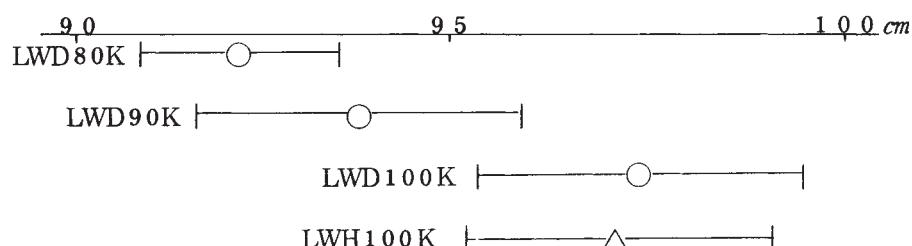
	LWD	LWH	LW
	100Kg	100Kg	100Kg
バ モ ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )	80Kg 1 0.3 3 3.5 5 1.2	90Kg 1 0.1 3 4.0 5 1.9	100Kg 1 1.0 3 2.4 5 4.9
5~6胸椎部	1 9.5	2 1.3	2 1.2
最後胸椎部	3 2.8	3 6.5	3 6.6
最後胸椎部における ロースの割合 (%)	3 3.4	3 0.8	2 9.8
バラの筋肉面積 (cm <sup>2</sup> )	3 2.3	3 4.7	3 6.7
バラの脂肪面積 (cm <sup>2</sup> )	2 9.3	3 4.6	3 6.4
バラの脂肪割合 (%)	4 7.3	4 9.9	4 9.7
pH	2 hr 2 4 hr	6.7 5.8	6.7 5.7
PCS	4.3	3.9	4.2
マーブリング	2.5	2.2	2.3
L 値(明度)	3 9.8	4 0.9	4 0.1
a 値(赤味)	9.2	9.3	9.3
b 値(黄味)	2.7	2.8	2.6
b/a(色相)	0.29	0.31	0.28
$\sqrt{a^2+b^2}$ (彩度)	9.55	9.76	9.65
ヘム色素(mg%)	4 9.1	4 9.8	5 0.2
保水性 (%)	8 0.5	8 0.6	8 0.2
加圧法	7 1.4	6 7.7	7 3.7
加熱法	2 9.8	2 9.7	2 9.1
伸展率			
テクスチロメータ			
硬さ	7.0	6.7	7.6
そしゃく性	5.9	5.3	6.3
水分質	7 4.3	7 4.2	7 3.6
蛋白質	2 1.3	2 1.6	2 1.8
粗脂	3.0	2.8	3.3

図 2-① 体重および品種別のと体形質

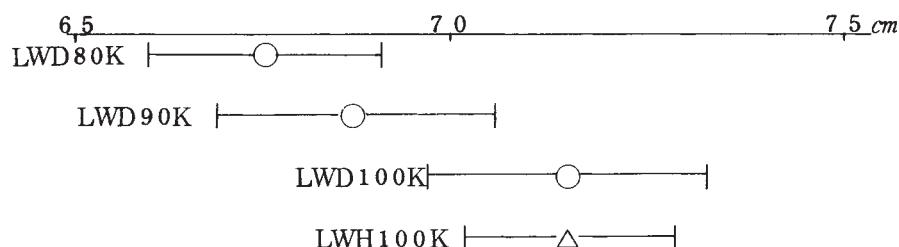
枝肉重量



と 体 長



背腰長 II



脂肪厚 (3部位平均)

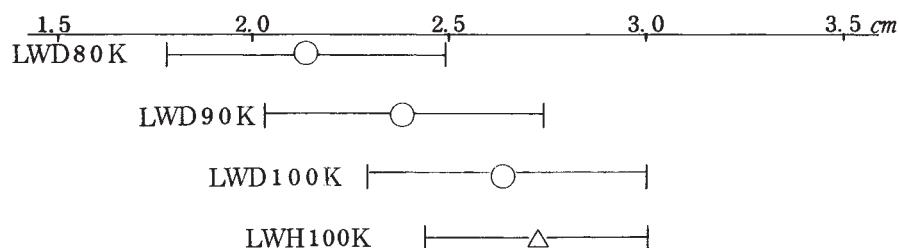
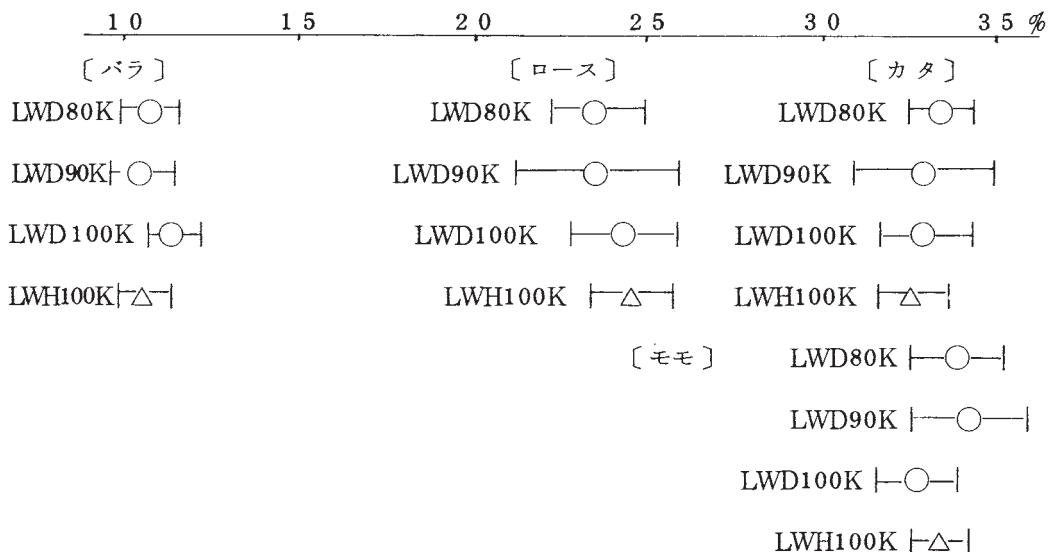
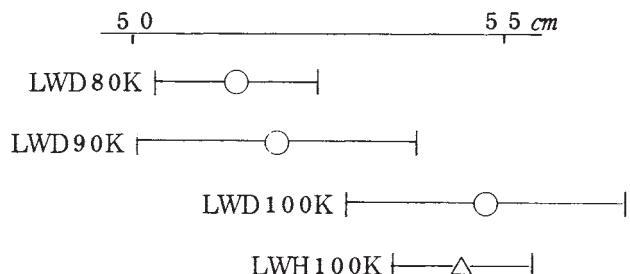


図 2-② 体重および品種別のと体形質

四分割割合



ロースの長さ



ロース断面積

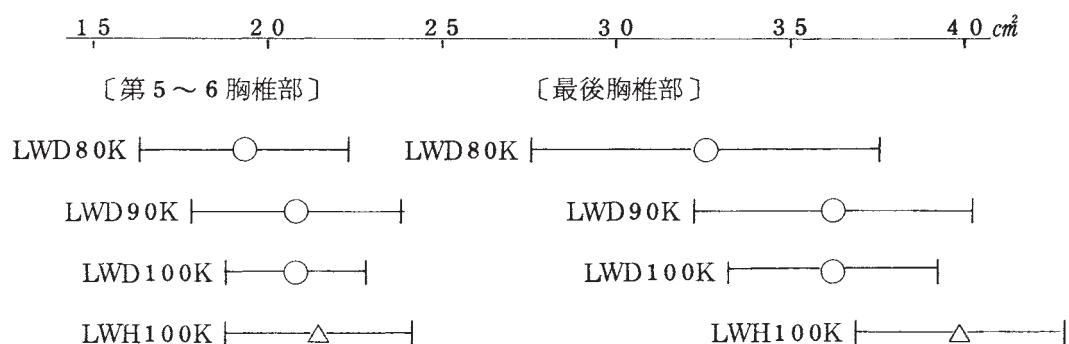
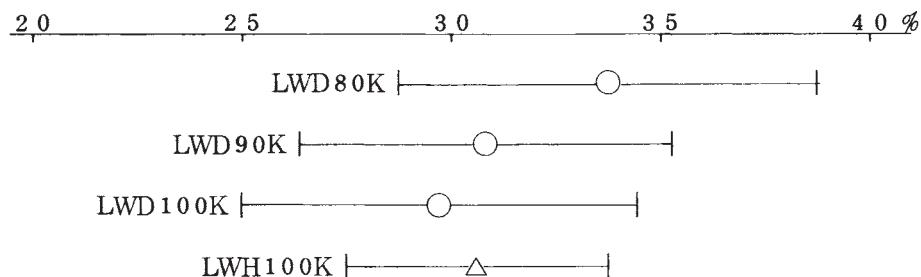
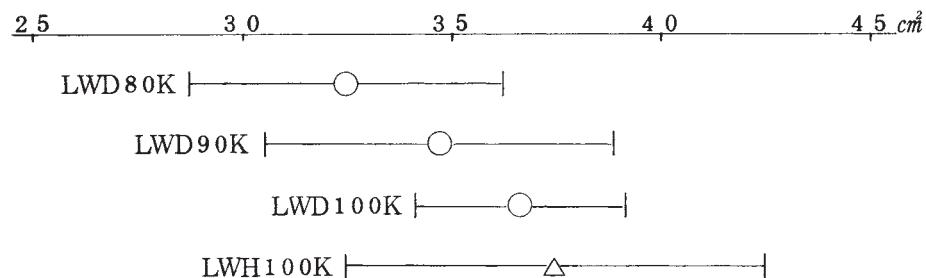


図 2-③ 体重および品種別のと体形質

ロース断面積の割合(最後胸椎部)



バラにおける筋肉面積(最後胸椎部)



バラにおける脂肪の割合(最後胸椎部)

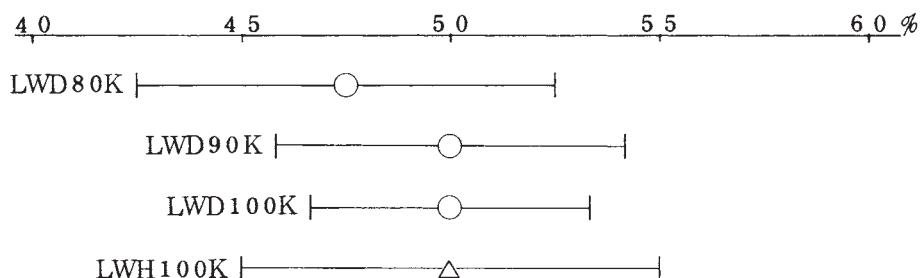
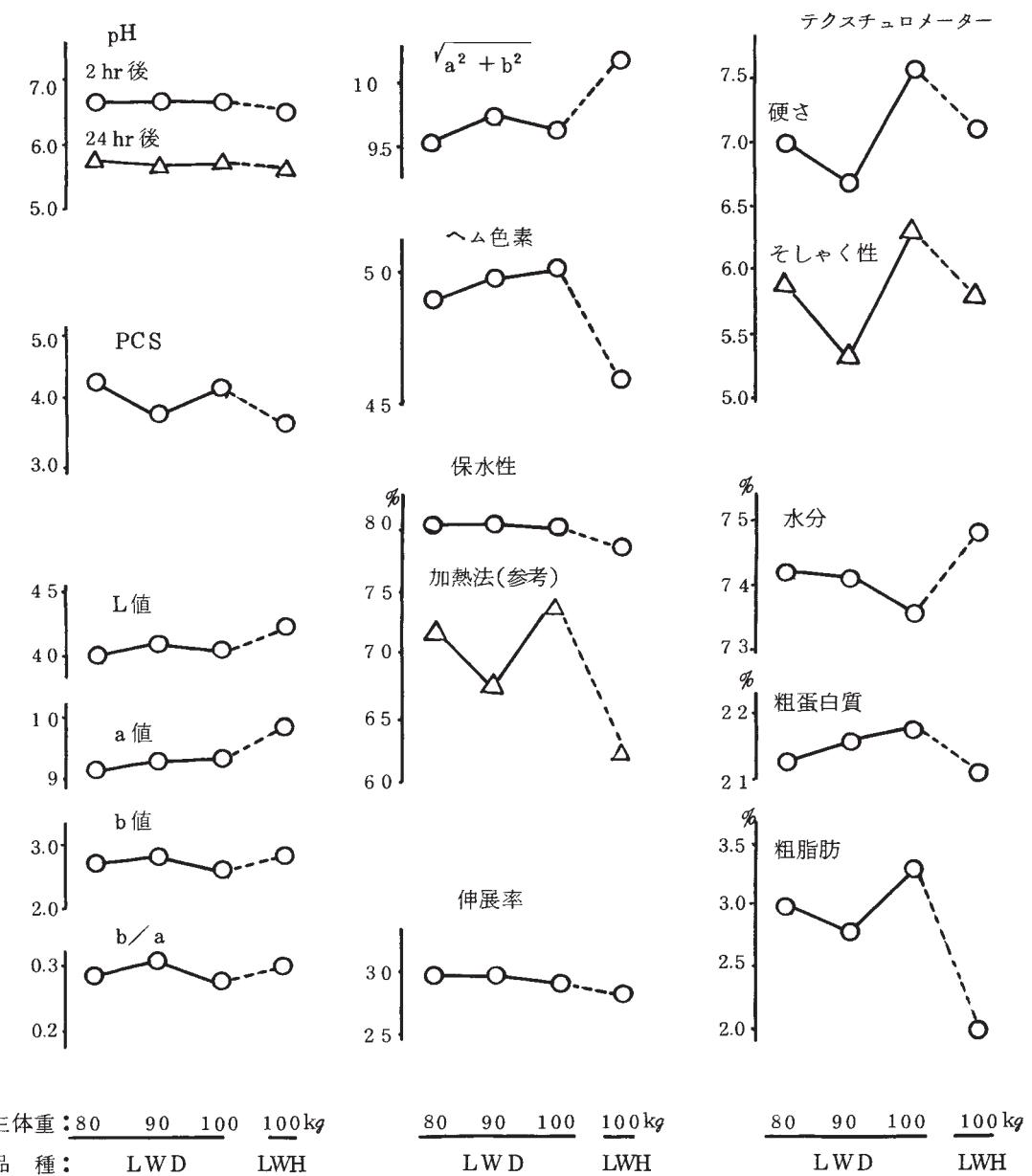


図3 体重および品種別の肉質成績(原料肉)



主体重: 80 90 100 100kg  
品種: LWD LWH

80 90 100 100kg  
LWD LWH

80 90 100 100kg  
LWD LWH

表5 加工豚の体脂肪の性状

	LWD 80kg (16頭)	LWD 90kg (16頭)	LWD 100kg (16頭)	LWH 100kg (16頭)	LW 100kg (4頭)	LWD(チルド 100kg (10頭)
<b>脂肪酸組成 (%)</b>						
ミリスチン酸(C14:0)	1.43	1.34	1.51	1.35	1.28	1.43
パルミチン酸(C16:0)	24.69	24.40	25.41	24.48	24.07	24.30
パルミトレイン酸(C16:1)	2.77	2.65	2.98	3.07	3.03	2.96
ステアリン酸(C18:0)	14.16	14.54	14.11	14.04	12.76	13.28
オレイン酸(C18:1)	41.53	41.60	41.65	41.93	44.16	42.73
リノール酸(C18:2)	12.17	12.35	10.87	12.11	11.70	11.92
リノレン酸(C18:3)	0.52	0.50	0.45	0.41	0.41	0.38
アラキシデ酸(C20:0)	0.29	0.28	0.26	0.25	0.21	0.26
ガドレン酸(C20:1)	0.94	0.90	0.95	0.73	0.87	0.91
アラキドン酸(C20:4)	0.20	0.21	0.19	0.19	0.19	0.19
不飽和脂肪酸	58.16	58.47	57.50	58.80	60.70	59.43
C18:2/C18:0	0.88	0.86	0.78	0.87	0.92	0.90
屈折率 *						
腎脂肪	52	51	56	51	50	51
背脂肪内層	57	55	61	55	55	55

\* : 屈折率は 1.45 以下の小数 3, 4 位を表示した。

表6 体重別格付け

生体重	頭数	上	中		並	上物率 (頭) %
			アツシ	ナンシ		
80K	16	0	4	12	0	0
90K	16	1	9	5	1	6.2
100K	47	18	16	9	4	38.4
合計	79	19	29	26	5	24.1

表7 加工整形後のバラの大きさ

	厚さ	長さ	巾
80K	3.83	48.07	24.81
90K	4.19	49.21	25.84
100K	4.56	50.18	27.13









表 12 依頼検査分析の結果（微生物及び成分）

サンプル群	一般生菌数/ $\text{g}$	大腸菌群	亜硝酸銀 ppm	食 塩 %
LWD 100kg ロース	$5.9 \times 10^4$	( - )	18.6	1.97
LWD 90kg ロース	$4.3 \times 10^4$	( - )	8.2	2.02
LWD 80kg ロース	$2.7 \times 10^4$	( - )	10.4	2.18
LWD 100kg うちもも	<300	( - )	1.9	1.92
LWD 90kg うちもも	$6.3 \times 10^3$	( - )	10.7	1.92
LWD 80kg うちもも	$1.5 \times 10^4$	( - )	38.0	2.15
LWD 100kg ばら			11.1	
LWD 90kg ばら			9.8	
LWD 80kg ばら			13.8	

表 13 依頼検査分析の結果（官能検査）

( 5 点法 )

サンプル群	外観	色沢	肉質	香味
LWD 100kg ロース	3.5	3.2	3.3	3.5
LWD 90kg ロース	3.5	3.3	3.5	3.7
LWD 80kg ロース	3.5	3.5	3.5	3.5
LWD 100kg うちもも	3.5	3.2	3.5	3.5
LWD 90kg うちもも	3.5	3.2	3.2	3.5
LWD 80kg うちもも	3.5	3.3	3.3	3.5
LWD 100kg ばら	3.2	3.5	3.5	3.8
LWD 90kg ばら	3.3	3.5	3.3	3.8
LWD 80kg ばら	3.3	3.5	3.3	3.8